令和６年２月９日

令和５年度　学校評価の結果と今後に向けて

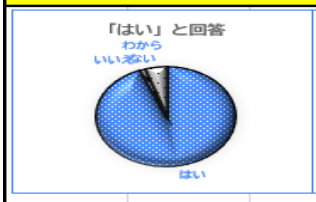
北海道札幌高等養護学校

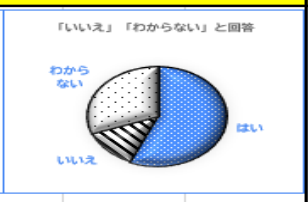
１　学校生活アンケート【生徒用】について　　対象　122 名　　回収率　89.1％

（１）項目①「学校生活は充実していますか」について、７割弱の生徒は「はい」と回答したが、「いいえ」「わからない」と回答した生徒も３割程度見られた。おおむね充実した学校生活を過ごせているが「いいえ」「わからない」とした要因を探り、改善に向けた方策を検討する必要がある。

　そのため、項目①に「はい」と回答した生徒と、「いいえ」「わからない」と回答した生徒について、それぞれ次の質問と合わせて再集計（クロス集計）して比較・分析した。

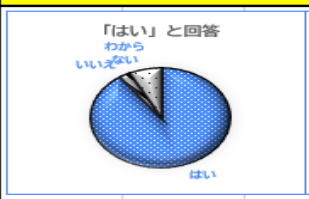
②学校の授業は分かりやすいですか

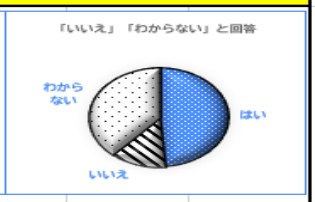




はい	93.9%		はい	56.4%
いいえ	1.2%		いいえ	12.8%
わからない	4.9%		わからない	30.8%

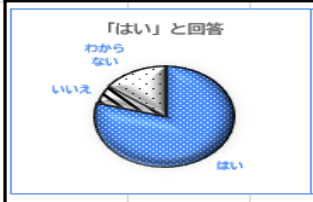
④自分の役割に責任をもって取り組むことはできますか

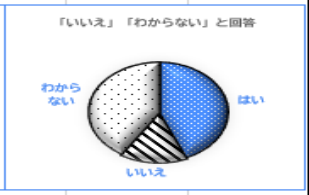




はい	90.2%		はい	48.7%
いいえ	2.4%		いいえ	12.8%
わからない	7.3%		わからない	38.5%

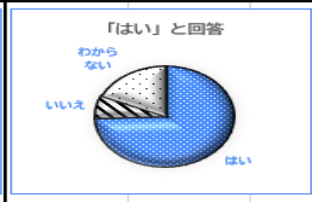
⑦相手の気持ちを考えて行動することができますか

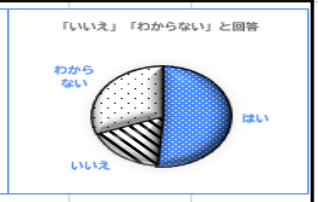




はい	79.3%		はい	43.6%
いいえ	6.1%		いいえ	15.4%
わからない	14.6%		わからない	41.0%

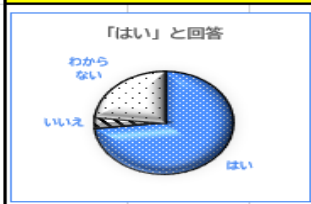
⑧難しいことや苦手なことにもチャレンジできていますか

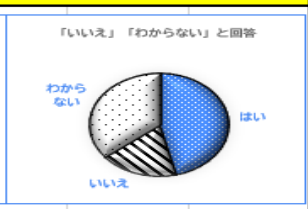




はい	74.4%		はい	51.3%
いいえ	7.3%		いいえ	17.9%
わからない	18.3%		わからない	30.8%

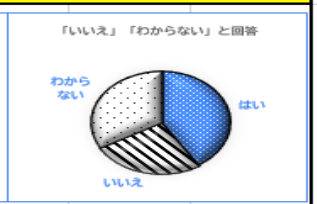
⑨学校であなたの気持ちを分かってくれる友達はいますか





はい	73.2%		はい	46.2%
いいえ	3.7%		いいえ	17.9%
わからない	23.2%		わからない	35.9%

⑩学校であなたの気持ちを分かってくれる先生はいますか



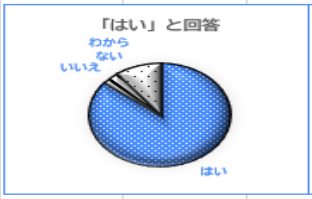
はい	87.8%		はい	41.0%
いいえ	0.0%		いいえ	25.6%
わからない	12.2%		わからない	33.3%

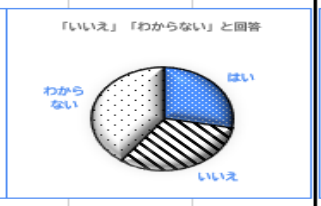
　項目①で「いいえ」「わからない」と回答した生徒は、他の質問でも「いいえ」「わからない」の回答が多かった。特に項目②では昨年に引き続き授業と学校生活の意欲との相関関係が明らかとなり、分かりやすい授業を展開することが、学校生活を楽しく前向きに過ごすための方策と考えられる。今後も日々の授業を改善する視点を常にもち、生徒一人一人の手立てを講じながら分かりやすい指導に努める。

　項目⑨⑩については、項目⑳㉑の寄宿舎にかかわる部分でも同様の結果が見られた。生徒同士の関係性に加え、生徒と教職員が信頼関係をベースに日々のかかわりをもつことが、学校生活の充実へとつながるため、今後も生徒とかかわる時間を確保し、傾聴を大切にしながら生徒指導を行うよう努める。

（２）項目⑱「寄宿舎生活は充実していますか」についても、同様に「はい」と回答した生徒と、「いいえ」「わからない」と回答した生徒について、それぞれ次の質問と合わせて再集計（クロス集計）して比較・分析した。

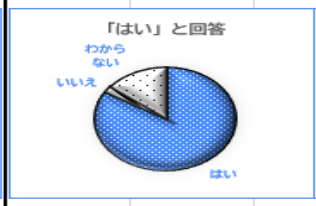
①学校生活は充実していますか

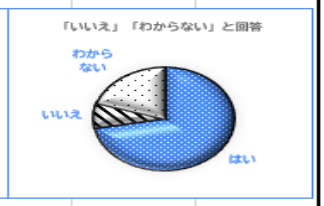




はい	85.7%		はい	28.0%
いいえ	4.1%		いいえ	32.0%
わからない	10.2%		わからない	40.0%

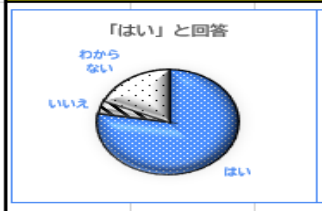
⑤一人でできることは増えてきましたか

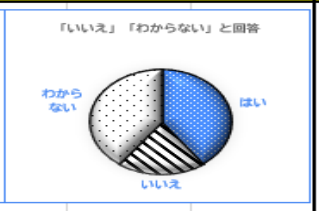




はい	83.7%		はい	72.0%
いいえ	2.0%		いいえ	8.0%
わからない	14.3%		わからない	20.0%

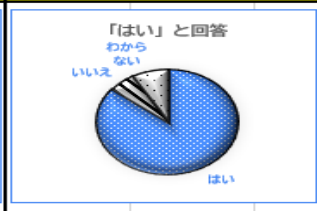
⑧難しいことや苦手なことにもチャレンジできていますか

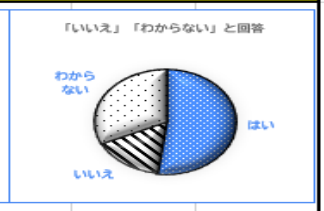




はい	77.6%		はい	40.0%
いいえ	4.1%		いいえ	20.0%
わからない	18.4%		わからない	40.0%

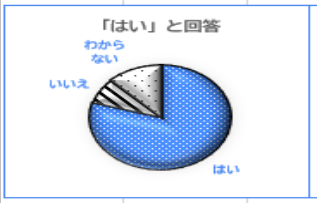
⑲身の回りのことを自分でできるようになってきましたか

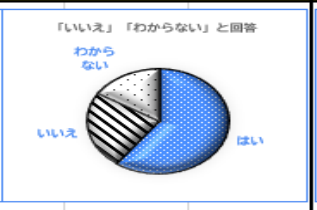




はい	85.7%		はい	52.0%
いいえ	6.1%		いいえ	16.0%
わからない	8.2%		わからない	32.0%

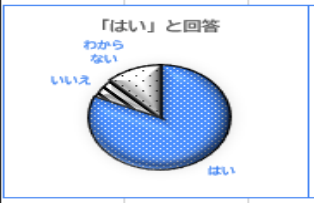
⑳寄宿舎であなたの気持ちを分かってくれる友達はいますか

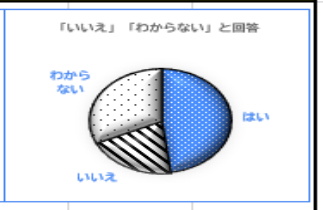




はい	79.6%		はい	60.0%
いいえ	8.2%		いいえ	24.0%
わからない	12.2%		わからない	16.0%

㉑寄宿舎であなたの気持ちを分かってくれる先生はいますか





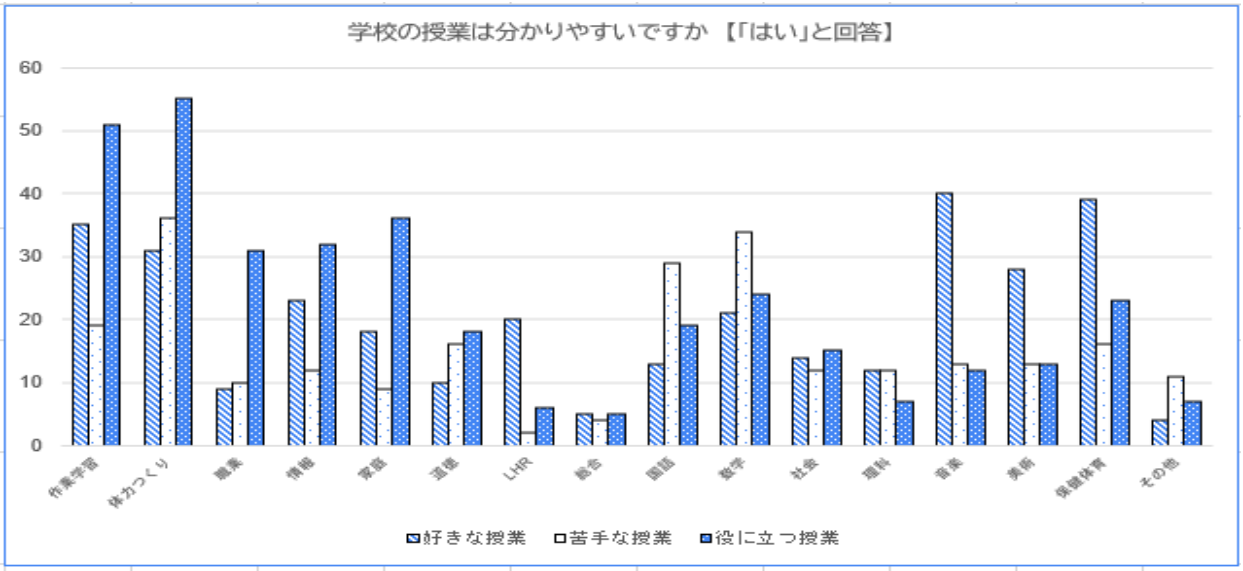
はい	81.6%		はい	48.0%
いいえ	6.1%		いいえ	20.0%
わからない	12.2%		わからない	32.0%

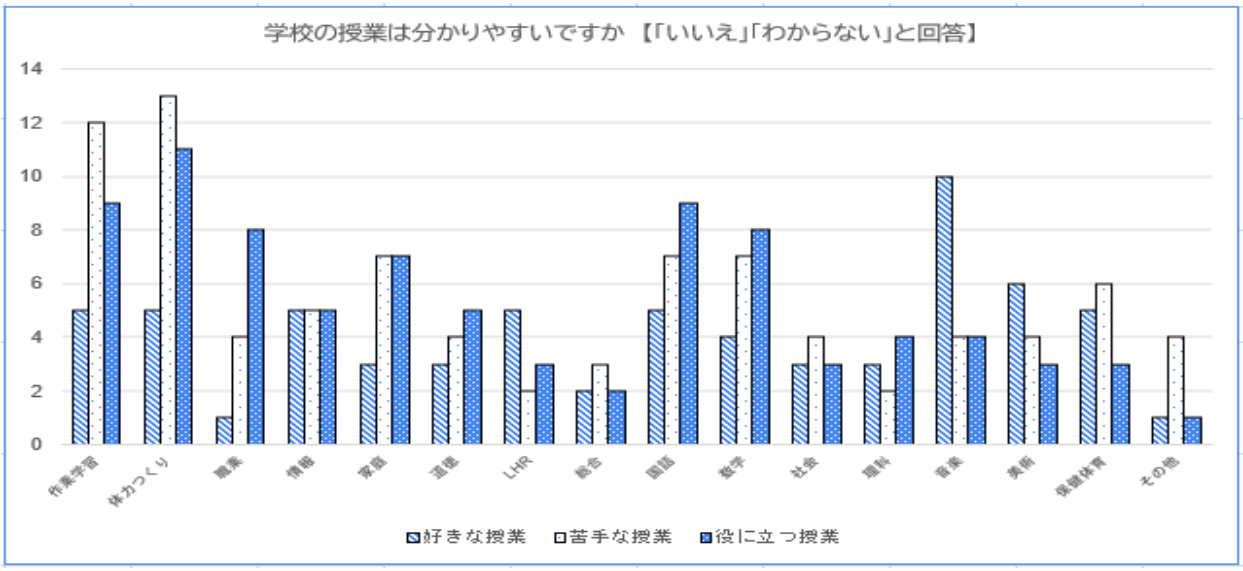
項目⑱で「いいえ」「わからない」と回答した生徒は、他の質問でも「いいえ」「わからない」の回答が多かった。特に項目①「学校生活は充実していますか」について、「はい」と答えた生徒は３割弱にとどまり顕著な差が見られた。寄宿舎生活の充実が学校生活全体の意欲につながると考えられるため、今後も様々な条件の中でできることを工夫しながら寄宿舎生活の改善に取り組んでいく。

項目⑲「身の回りのことを自分でできるようになってきましたか」について、「はい」と答えた生徒は約半数にとどまった。毎日の生活の中で、身の回りのことを自分自身で行うことが自信につながり、寄宿舎生活の充実につながると考える。今後も生徒が一人で取り組めるよう個別の手立てを講じながら、生活指導を行うよう努める。

（３）項目③「丈夫な体とたくましい心は身に付いてきましたか」について、「はい」と回答した生徒は６割を下回り、最も評価が低かった。改善に向けて、教育課程の軸である作業学習や体力つくりの充実に努め、生徒自身が目標ややりがいをもって取り組めるように工夫する。また、適切に評価し、生徒と教職員が共有できるよう努める。

（4）項目②「学校の授業は分かりやすいですか」について、８割を超える生徒が「はい」と回答した。おおむね分かりやすい授業を展開できているが、より効果的に進めるため授業ごとの差や偏りを確認し、それぞれ次の質問と合わせて再集計（クロス集計）して比較・分析した。





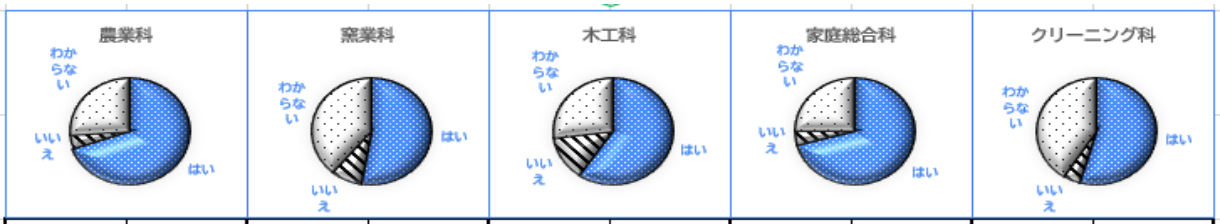
教科別の偏りとして顕著なものは見られなかったが、好きな授業として音楽の回答が多かった。学校祭での学年音楽発表が自信となり、結果につながったと考えられる。

国語、数学については、生活の役に立つと考えてはいるものの苦手との回答も比較的多かった。社会生活に生きる基礎的な力を身に付ける教科であるため、引き続き学習内容や授業展開を工夫しながら、生徒が意欲的に取り組めるよう改善に努める。

生活の役に立つ授業では、作業学習、体力つくりとの回答が多く、本校の教育課程の軸として生徒も高い意識をもちながら取り組んでいると考えられる。しかし、上記(3)のとおり、評価としては低く、苦手な授業として捉えている生徒も多い。改善に向けて、作業学習においては題材の工夫や評価の在り方を検討し、生徒がやりがいをもって取り組み、適切に自己評価できるよう努める。体力つくりにおいては、自分の力に応じた最適な目標設定と、達成に向けた日々の取り組みの成果を視覚的に示し、実感できるよう手立ての工夫に取り組む。この評価結果を次年度の年間指導計画の改善につながるとともに、校内研究にも活用していく。

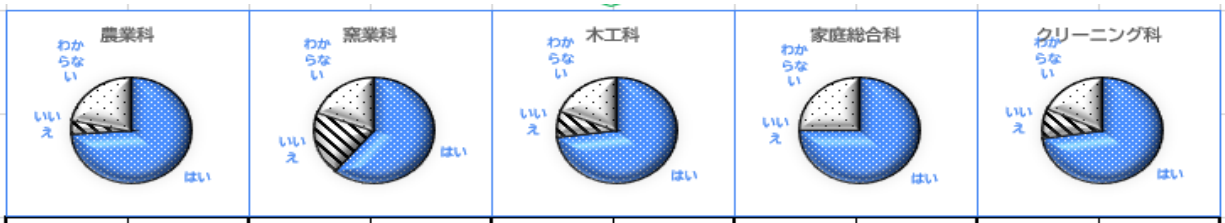
（4）質問④「自分の役割に責任をもって取り組むことはできますか」、質問⑤「一人でできることは増えてきましたか」及び質問⑧「難しいことや苦手なことにもチャレンジできていますか」について、各学科での回答をクロス集計し、学科間での差や偏りについて比較・分析した。

④「自分の役割に責任をもって取り組むことはできますか」



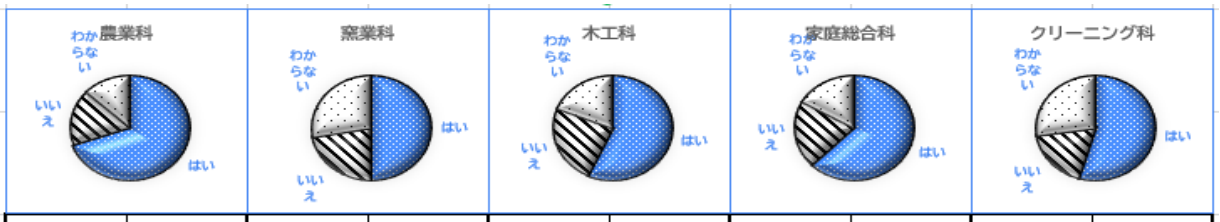
はい	69.6%	はい	52.8%	はい	59.5%	はい	70.8%	はい	54.5%
いいえ	4.3%	いいえ	8.3%	いいえ	13.5%	いいえ	4.2%	いいえ	4.5%
わからない	26.1%	わからない	38.9%	わからない	27.0%	わからない	25.0%	わからない	40.9%

⑤「一人でできることは増えてきましたか」



はい	73.9%	はい	61.1%	はい	73.0%	はい	75.0%	はい	72.7%
いいえ	4.3%	いいえ	19.4%	いいえ	8.1%	いいえ	0.0%	いいえ	9.1%
わからない	21.7%	わからない	19.4%	わからない	18.9%	わからない	25.0%	わからない	18.2%

⑧「難しいことや苦手なことにもチャレンジできていますか」



はい	69.6%	はい	50.0%	はい	56.8%	はい	62.5%	はい	54.5%
いいえ	17.4%	いいえ	22.2%	いいえ	24.3%	いいえ	20.8%	いいえ	18.2%
わからない	13.0%	わからない	27.8%	わからない	18.9%	わからない	16.7%	わからない	27.3%

各学科間における偏りとして顕著なものは見られなかったが、農業科、家庭総合科は、どの項目も７割前後の生徒が「はい」と回答しバランス良く評価されていた。また、項目⑤については各学科ともに６割を超える生徒が「はい」と回答しており、一人でできることが着実に増えてきていると考えられる。この３つの項目は、教育課程のコンセプトの一つ「働く力」に関連するため、今後も「責任」「自立」「チャレンジ」などをキーワードに、作業学習の題材の工夫や働く実感を得られる授業づくりに努める。また、今後も学科間で連携し、地域における創造的な取り組みを工夫し、協働しながら作業を進め、将来の社会生活での自立を目指して取り組める作業学習を展開できるよう努める。

2　学校評価に係る保護者アンケートについて　　対象　88 家庭　　回収率　64.23%

（1）すべての項目で基準となる 3.00 を上回った。特に項目６「他者の気持ちを考えて、思いやりのある行動をとることができるようになってきている」では、昨年度は 3.00 を唯一下回っていたが今年度は上回ることができた。コミュニケーション力や人間関係を構築する力の育成は大きな課題として挙げられるが、学校全体として「親しみやすい」「気持ちの安定」「相手意識」などの意識が高まり、将来の社会生活に向けて生徒自身が「感じのいい人」を目指して取り組んでいる成果が表れてきていると考える。今後も、学校教育全体を通して継続して取り組んでいく。

（2）寄宿舎に関わる項目では、平均で 3.30 を上回り、昨年度に引き続き高い評価をいただいた。今後も寄宿舎生活の充実を目指して学校と保護者が連携するとともに、きめ細やかな情報共有と信頼関係の構築及び環境整備の充実に努める。

（3）項目 17「事務職員は、事務手続きの説明や相談に適切に応じている」（3.42）では、昨年度より大きく平均点が上がった。事務職員が生徒や保護者の立場で日々の業務に当たり、丁寧に対応している成果だと考える。本校の特色の一つとして今後も継続して取り組んでいく。

（4）項目４「子どもは、丈夫な体とたくましい心が育ってきている」（3.07）また、項目６「他者の気持ちを考えて、思いやりのある行動をとることができるようになってきている」（3.01）では、平均点が基準を超えているものの比較的低かった。学校全体の課題と押さえて、次のとおり改善に努める。

項目	項目内容	改善点及び今後に向けて
4	子どもは、丈夫な体とたくましい心が育ってきている	・本校の教育課程のコンセプトである「働く力」「生活する力」「体力」の一つでもあるため、今後も教育課程の軸でもある作業学習と体力つくりの充実を図りながら、丈夫な体とたくましい心の育成に努める。また、進路指導について、夢や希望に向けてチャレンジする姿勢を大切にしながら、自分自身で目標をもち、達成に向けて努力していく態度を育てていく。
6	他者との付き合い方についての力が育ってきている。	・本校の教育課程では、特別の教科　道徳を週１時間行っている。その中で考えたことを、生活の中で実践しながら人との関わり方や社会での振る舞い方などを身に付けていけるよう努める。また、情報において正しい情報の見分けと注意事項を学んだり、保健体育や行事などにおける集団活動を通して、実践的なコミュニケーションや他者との適切な関わり方などを学んだりする機会を設ける。 ・SNS の活用や注意事項については、各家庭と連携し、家庭で取り組むことと学校でできることを整理しながら指導に当たっていきたい。

3　学校評価　教職員（職員室、寄宿舎、事務室）について　　対象　99 名　　回収率　100%

（1）全 28 項目中 27 項目で基準となる 3.00 を上回った。また、昨年度と同じ質問項目（21 項目）のうち、18 項目で昨年度の平均点を上回ることができた。「個人を責めずに組織を改善する」「部署で検討した原案を基本的に支持し、必要に応じて建設的な意見を付け加える」「課題に対してコアチームで検討し、原案を作成する」などの取組により、職員が心理的安全性を確保しながら日々の業務に当たることができた。

（2）項目２「教育課程」（3.22）や項目４「授業」（3.17）、項目８「進路指導」（3.22）について、平均点は昨年度を上回った。今年度より改訂した教育課程を３学年そろって実践しており、「働く力、生活する力、それを支える体力をバランス良く育成する」というコンセプトが浸透してきていると考える。また、校内研究でも授業改善に向けて一人一授業の研究を深め、少しずつ授業実践が充実してきていると考える。今後も引き続き、授業改善に努めていく。進路指導については、一般就労に向けてチャレンジする意識が高まり、生徒自身が努力を重ねていく様子が見られてきている。今後も生徒のチャレンジを支え、生徒と教員が協働して取り組めるよう努める。

（3）平均点が基準を下回った項目 19「組織運営」（2.96）に加え、項目 15「研究・研修」（3.01）、項目 18「情報発信」（3.03）、項目 22「危機管理」（3.04）、項目 21「働き方改革」（3.07）については、学校全体の課題と押さえて、次のとおり改善に努める。

項目	項目内容	改善点及び今後に向けて
15	研究・研修	・校内研究に加え、月に１回の「ミニ研修」の機会に様々な分野を学ぶことができるよう努める。また、新たな研修制度に伴い、主体的な研修の推進に努める。
18	情報発信	・現在、ホームページの更新作業を進めており、学校の取組や必要な情報が見やすいよう工夫する。また、一斉メールサービス「ラクメ」を活用した情報発信を進めていくために、すべての家庭のラクメ登録を目指して取り組む。
19	組織運営	・昨年度よりは改善されたものの、引き続き全校的な視野で、教職員の専門性を発揮できる適材適所の配置を目指すとともに、授業や行事担当、担任業務、分掌業務など総合的な視点で業務分担を行う。
21	働き方改革	・定時退勤日を月に２回設定し、計画的な業務遂行に努める。また各部署で業務内容の見直しと効率化を引き続き図るとともに、同僚性をより高めつつ協働し合える雰囲気の醸成に努める。
22	危機管理	・昨年度よりは改善されたものの、職員一人一人が日常の正常な状態（生徒、施設、環境）をしっかりとおさえ、いつもと違う状況になったときに想定される危機を意識するよう心掛ける。また、連絡、報告、相談、確認を十分に行い、一人では抱えず、組織的な対応を心掛ける。